



令和8年度
学校組合立牧之原小学校
学校だより



重点目標 わたしも みんなも 大切にする子 【校長 田中正信】

＜職業体験を終えた中学生からの手紙です＞

拝啓

新緑の爽やかな季節となり木々の緑も日に日に深まってまいりました。先日の職業体験学習では大変お世話になりました。お忙しい中、沢山の御指導いただき、本当にありがとうございました。今まで経験したことのないことや、考えもしなかったことばかりで、とても新鮮な気持ちで取り組むことができました。また、今までは自分が働くことについて深く考えていませんでしたが、この体験学習を通して、もっと自分の将来のことを今から真剣に考えなくては、という思いになりました。特に印象的だったのは、校長先生の話にあった「先生たちは苦勞しているとは思わない。やりがいがあると感じている。」というお話でした。私は二日目の帰り際に「先生たちの日々の苦勞がよくわかりました。」と話しました。校長先生の言葉を聞いて、確かにこの二日間は慣れないことばかりで大変でしたが

牧之原中学校 2年 ()

働くことに苦勞を感じることはなかったと思います。

そう思うと二日間でもちゃんとやりがいを感じることもでき、児童と関わる楽しさが本当に良くわかりました。私は今まで小学校や中学校で特に何も考えずに過ごしてきましたがこの職業体験学習で私達が何気なく生活できていたのは、私達のために毎日働いてくれている先生方が一生懸命、児童や生徒のことを考えてくれているからとよくわかりました。そんな事を考えながらこれから一日一日を過ごしたいと思いました。また授業では得られない貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今は正直、もう一日だけでも牧之原小学校で職業体験をしたかったです。最後になりましたが、牧之原小学校の先生方や児童の御健康、御多幸を心よりお祈りしています。二日間でしたが本当にありがとうございました。

上記は、牧之原中学校2年生の生徒から職業体験を終えての礼状です。わずか2日間で慣れない環境の中で大変だったはずですが、それを上回る「新鮮な気持ち」や「学び」を得たことが、丁寧できれいな文字からもひしひしと伝わってきますし、この体験が2日間だけで終わる一過性のイベントではなく、これからの学校生活や生き方に対する姿勢を変えるきっかけになったことが分かります。

牧之原小の子供たちも、数年後には中学生として職業体験を行うかと思います。きっとその時に、「自分が受けてきた教えや、日常の背景にある親・地域の方を含めた多くの大人の支えと愛情」に気づくことと思います。手紙にある「何気なく生活できていたのは、私たちのために毎日働いてくれている」という言葉は、学校の教職員だけでなく、日々子供たちに無償の愛を注ぎ続けていらっしゃる保護者の皆様の姿そのものだと思います。子供たちは、大人の背中をしっかりと見て育っています。

いつか子供たちが「働くことの喜び」や「周囲への感謝」に気づくその日まで、今ある何気ない日常を大切にしながら、子供たちの未来を温かく支え、導いてまいりたいと、この手紙を読み改めて強く感じました。

<お話会の皆様による読み聞かせ>



大型の本や紙芝居の内容に、1・2年生は引き込まれて食い入るように聞いていました。



<5年生調理実習>

めあてに向かって、安全第一で調理ができました!ご協力いただいた皆様ありがとうございました!



めあて
 ・教科書を見ないで調理ね
 ・一人一人が働く。
 ・お家の人、地いきの人にならないう。
 ・時間内に片づけをする (ガマツロ流しで)
 お家の人、地いきの人に感謝の気持ち
 わすれないうこと!!



<6月19日静岡科学館『る・く・る』に行ってきました!>



2年生とかがやき学級のみんで乗り物探検でバス・電車を利用して出かけました。ドキドキしながら切符を買う子、「降りる人が先だよ」と電車に乗る際に声をかけるなど、いつもとは違う姿が多く見られました。

